2022 年 7 月
JDLA 事務局

「AI ガバナンスとその評価」研究会
（第Ⅱ期）第 8 回
開催報告

1. はじめに

日本ディープラーニング協会では、人工知能（以下 AI）や Deep Learning（以下 DL）に関連する国内外の政策動向についての知見を深め、議論する場としてテーマごとに研究会を設置している。本研究会「AI ガバナンスとその評価」は多様なアクターによる管理・評価の体制の在り方を「ガバナンス」と定義し、どのようなガバナンスの形がありうるのか調査し、信頼される AI の構築の一助とする研究会を 2020 年 7 月から立ち上げ、第Ⅱ期の検討を 2021 年 9 月から実施している。

研究会第 8 回（2022 年 6 月 3 日）においては、今期のまとめの回として、第Ⅱ期の成果物である報告書『AI ガバナンス・エコシステム―AI は誰が管理・評価するのか―』を紹介し、意見交換を行った。

2. 第Ⅱ期報告書『AI ガバナンス・エコシステム―AI は誰が管理・評価するのか―』の報告

松本副座長が、第Ⅱ期報告書の内容として、今期の検討を踏まえて整理した課題と、今後の展開案について紹介した。今期は、研究会第Ⅰ期に提唱した「AI ガバナンス・エコシステム」の概念をさらに多様化・充実化するため、①AI ガバナンス・エコシステムのアップデートへ向けた検討と、②AI ガバナンス・エコシステムのケース検討を行った。

①のアプローチについては、今期前半におこなった外部環境の議論を踏まえて更新されたエコシステムの要素（機能・役割）の紹介と共に、それぞれのアクターに共通する課題についても示された。

また②のアプローチについては、今期後半に実施した HR 領域を特定したケース検討の内容として、アンケート結果と事業者ヒアリング等から特に重要と考えられる機能や役割について整理した結果が紹介された。

3. 意見交換

今期整理された論点や成果物の内容について、話題提供やケース検討のヒアリングに参加された専門家、研究会メンバーよりフィードバックを頂いた。主なコメントの概要を下記に示す。

- 今期の検討で大まかな、制度、体制、ルールの在り方が少し見えてきつつあるが、もう一段上の、具体内容の研究はまだまだ必要になるかなと思っている。例えば人事領域なら、市民側との協議が必要とされたときに、具体的にどことどのような話をするかというよう

なこと。

- 利用する側にいかにサービスの価値を感じてもらえるかが重要と感じている。使う側、提供する側、さらにその周りを含めて、納得感を醸成できる枠組みが重要になると感じている。
- ビッグデータとツールがあれば何かできるというのではなく、もともとの目的と、KPI をきちんと整理してからデータやツールを使うということが必要である。
- 課題の解決はさることながら、その大前提でまず必要なのは、自分たちの問題は何かを発見する能力。報告書で「問題解決」とある表現は「問題発見や問題定義」とした方がより伝えたいことに合う。
- リスクを減らしながら、利益を最大化するという企業活動に重要な部分に対して、どういった統制を、コストを抑えながら取っていくかが課題であり、MLOps の活用はその観点からも意義がある。
- データを提供する企業や市民は必ずしも「課題解決」をみてデータをデザインしているわけではない。データサイエンティスト側はその点を意識して、データの欠点を補い、デザインするという役割を含めてスキルを高めていくと、より有意義なデータ活用・課題解決へとつながっていくだろう。
- AI システムに対する監査についてはガイドラインがなくて対応が難しいが、少し動きもでてきている。内部監査におけるアプローチでは、監査人が AI システムの品質や倫理的な問題等、どこまで踏み込めるか、というところが課題だろう。倫理的な問題については、開発側がどのようにリスクを認識して評価しているか、というプロセスを確認するだけでも有効な監査にはなるのではないか、と考える。また、学習毎に適正に評価するサイクルがあるか、も注意するべき点である。

（文責：JDLA 事務局）

＜(第Ⅱ期)第 8 回開催概要＞

日時　：6 月 3 日（金）16:00-17:30（Zoom 開催）

内容　：

・第Ⅱ期報告書『AI ガバナンス・エコシステム—AI は誰が管理・評価するのか—』の紹介

・意見交換